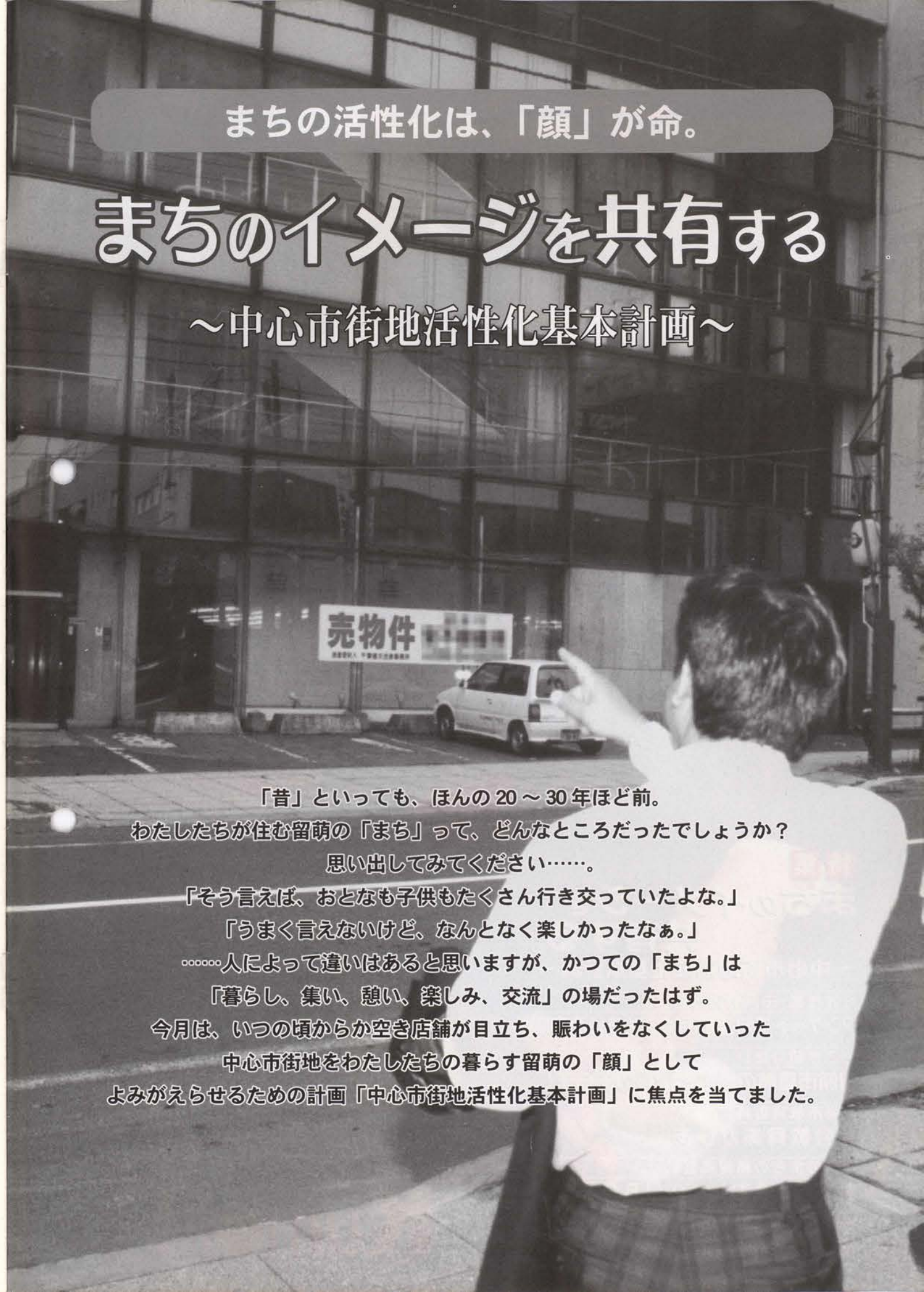


まちの活性化は、「顔」が命。

まちのイメージを共有する

～中心市街地活性化基本計画～



「昔」といっても、ほんの20～30年ほど前。
わたしたちが住む留萌の「まち」って、どんなところだったのでしょうか？
思い出してみてください……。
「そう言えば、おとなも子供もたくさん行き交っていたよな。」
「うまく言えないけど、なんとなく楽しかったなあ。」
……人によって違いはあると思いますが、かつての「まち」は
「暮らし、集い、憩い、楽しみ、交流」の場だったはず。
今月は、いつの頃からか空き店舗が目立ち、賑わいをなくしていった
中心市街地をわたしたちの暮らす留萌の「顔」として
よみがえらせるための計画「中心市街地活性化基本計画」に焦点を当てました。

写真で追う

これがワークショップだ!!



いままでのワークショップの内容を写真で紹介します。

①さあ、駅前から市役所まで
タウンウォッチングです。
リュック姿で張り切っている
メンバーもいますね。



②歩き始めて1分も経たない
うちに、シャッターの降り
た空き店舗があるよ。
駅前としては寂しいね。



なぜ、中心市街地 も活性化あるの？

現在の留萌……、車はたくさん走っています。でも、行き交う人はあまりありません。空き店舗や空き地も目立っているし、暮らしている人も減った。留萌に住んでいて楽しいと思えるのは、お祭りのときぐらいかな。集える場所もない気がするし、憩える雰囲気も……。

留萌はいつの頃からか、そんな状態、雰囲気になっている気がします。人口減少、大型店の進出、不況や不景気、車社会、郊外居住など、原因はいろいろ考えられます。しかし、この状況は決して留萌だけに起きているのではなく、日本全国いたるところで起こっているのです。

でも、このままこの状況を黙って見ていて良いのでしょうか。わたしたちの「まち」が留萌から消えてしまっても良いのでしょうか。

では、留萌の「顔」とも言うべき中心市街地を再び活気あふれるまちにするために、市民や行政はどう考え、どう行動すればいいのでしょうか。

市では、中心市街地活性化基本計画を作ることを決め、計画を作る手段に「ワークショップ」を用いて、市民をはじめ、事業者や行政が、計画をまとめていくためのヒントやアイデア、提案を出し合い、全員で議論、行動しながら協働で作業を進めていくことにしました。

第1回ワークショップ 「課題を探そう」

集まったメンバーは、42名。メンバーたちは、市街地の商店街を改めて見つめ直すため、早速タウンウォッチングへ。

生まれ育ち、日頃から見なれた「まち」を、留萌駅前から留萌市役所まで約1・5キロ歩きまわりました。

さて、メンバーたちはどう思ったのでしょうか。

「おや、思ったより人の流れがあるぞ」「うーん、歩道にゴミが落ちてるなあ」「この空き店舗なるとかできないかなあ、なにか使い道はないのかなあ」

様々な思いを胸にメンバーたちは、ワークショップの会場へ戻ってきました。さあ、いよいよワークショップが始まります。

第一回目のテーマは、「課題を探そう」。

どういうことかというところ、「留萌を元気なまちにするにはどうしたらいいのか、どのようなテーマで話し合いを進めていくのか」をメンバーに議論していただくというのがねらいです。4つのテーブルに分かれたメンバーたちから、元気なまちにするために、どんなことを考え、行動すれば良いのか、様々な「夢」「想い」「不満」が出てきましたよ。

テーブル1

「中心市街地って、どこ?」「なんとなくぼやけているね」「まづ留萌の中心を決めようよ」

このグループでは、留萌の中心、中心市街地のエリアについて議論をはじめたようです。

テーブル2

「夕陽がきれい」「食材に恵まれているわ」「自然に恵まれて